

図－1 は YouTube 動画の切り抜きである。箱罌に捉えられた熊と猪の例だが、身体的自由を奪われたことからの物凄い暴れ方である。人間に重ねれば身体的束縛は刑務所に入れた状態である。刑務所といえども、このような檻、箱罌状態ではないから身体的束縛はこれよりは少しの自由度はあろう。「人間は万物の霊長」と云わる中での**大問題は「精神の束縛、心の自由拘束」**である。

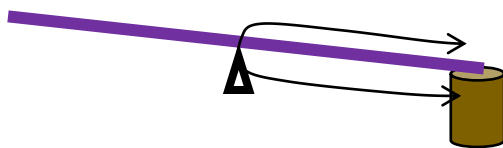


図－1 a／北海道ニュース UHB

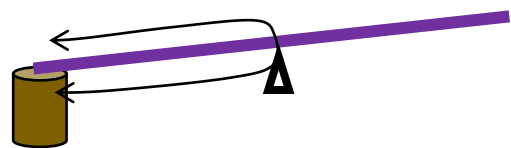


図－1 b／JR4TRA

そこで連想するのが、図－2 にイメージするとおりの、片寄った・偏執・偏頗した思想信条の象徴的権化である政治家と宗教家（信者を含む）である、政治家や宗教家だけではない、吾がコミュニティにもウジャウジャいるではないか。どちらかに偏って、それが当たり前で自由を得たりと思っているのは妄想という。

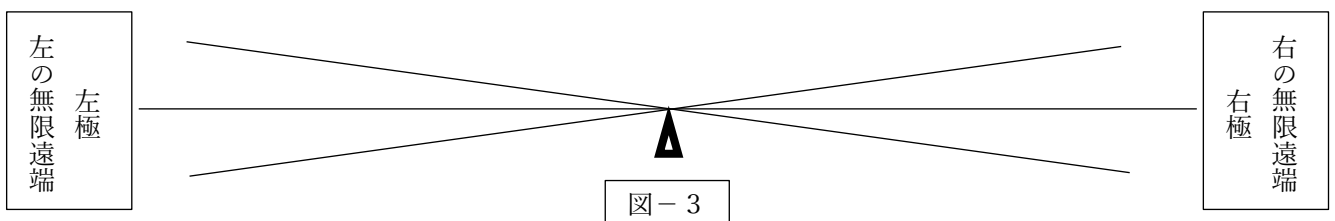


図－2 a

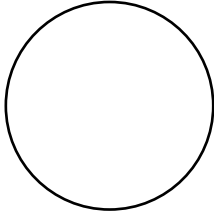


図－2 a

本当の自由ある心・言・行（意・口・身）とは、図－3 イメージのとおり、左極から右極へ、右極から左極へ、間断なき自由自在の往復（行き来）にある。



図－2 および図－3 の心・言・行視野を円弧に等価変換すると図(表)－4 のとおりとなる。

図－ 2	有限角円弧		有限性直線的視界
図－ 3	無限角円弧		無限性直線的視界
図(表)－ 4			

私は、そのような偏った思想信条に毒された姿を揶揄する時に譬えるのが次のとおり。私自身がこのように後ろ指を指されないように強く意識している。

1) 檻の自作自入

入ると同時に自動施錠が作動する檻を自作し、内部で自作自演・一人相撲、内部で地産地消^{てい}の体になり一時は楽しみ、・・・しかし、外の空気も吸いたくなかったが、鍵を紛失した故に出るに出られなくなって、大暴れする図－ 1 の様態となる。

2) “^{しっこく}(※)桎梏^{あほ うじ} ア縫^{てい}自 野郎”の体 (阿 呆)

私の造語、自らを手かせ足かせの自ら縫った袋に自ら入り、真の自由が取れない状態、ア縫^{ほう}は阿呆のこと、アは阿吽の阿、総ての始まりを指す、本人は意識出来ないことから深層無意識層は図－ 1 の様態にある。

3) 透明バリア・ベールで身体包装

人の思想信条は長年の偏りで固まった悪弊であり、本人は偏っているとは認識出来ないことから、このように表現し、深層無意識層は図－ 1 の様態にある。

〇〇党に所属する政治家はどっぷり嵌まって塩漬け状態、私利私欲を貪るその心の中は邪心で真っ黒気、〇〇宗に皈依する宗教家はどっぷり嵌まって塩漬け状態、偶像崇拜を貪るその心の中は邪心で真っ黒気になるのは自然原理なのだ。しかし、他方で、政治家と宗教家にもきれいな空気は流れて来るのだ、その空気と一体になって、ゴミを、滞留物（我欲・邪念）を常に掃き出し、その立場としての「ノブレス・オブリージュ（「何とか長」の付くもののその肩書・役職に伴う責任と義務の 100%履行）」を以って全身全霊を注力した人が現れることに期待は持ちたい。「心の灑掃^{さいそう}・洗心」に精進し、国のため、民のために不惜身命の人が現れることに期待は持ちたい、が・・・。現状、その世界に現れる兆候は皆無だ。だからそういう人は私の心の中では軽蔑嘲笑し、口述に対しては馬の耳に念仏であり、面従腹背であしらっている。

(end)